

木材価格市況標準相場

令和7年3月4日

東京木材問屋協同組合
価格市況調査委員会

○今月の価格動向

(1) 値上げ品目	6
合板	6

○今月の市況動向

2月の商況は、全体的には荷動きが悪いままだが、在庫量は確実に減少している。品目によっては、品不足感が出ているとの報告が聞かれた。

(国産材) 秋田の原木市況は、昨年11月には中目材が12,000円を切っていたが、今年2月には15,000円まで回復している。構造材でも価格は強い状態で、全品で強含み保合いの評定となった。吉野材では、山林労働者不足と原木出材費の高騰等で出材は悪い。

(輸入材) 現状の入荷量は少ない。しかし、アメリカの関税問題、カリフォルニアの山火事の影響、為替等が不透明さを増していることから、入荷量は大きく増えないとの報告があった。

(合板) 輸入合板では、需要は盛り上がりえない中、品薄アイテムから価格の上昇が見られる。今後、マレーシアでは、生産減と生産遅れが確実であり、3～4月には不足感が顕著になると推測される。国内針葉樹構造用合板では、メーカーが3月以降も不採算を理由に更なる値上げを打ち出している。